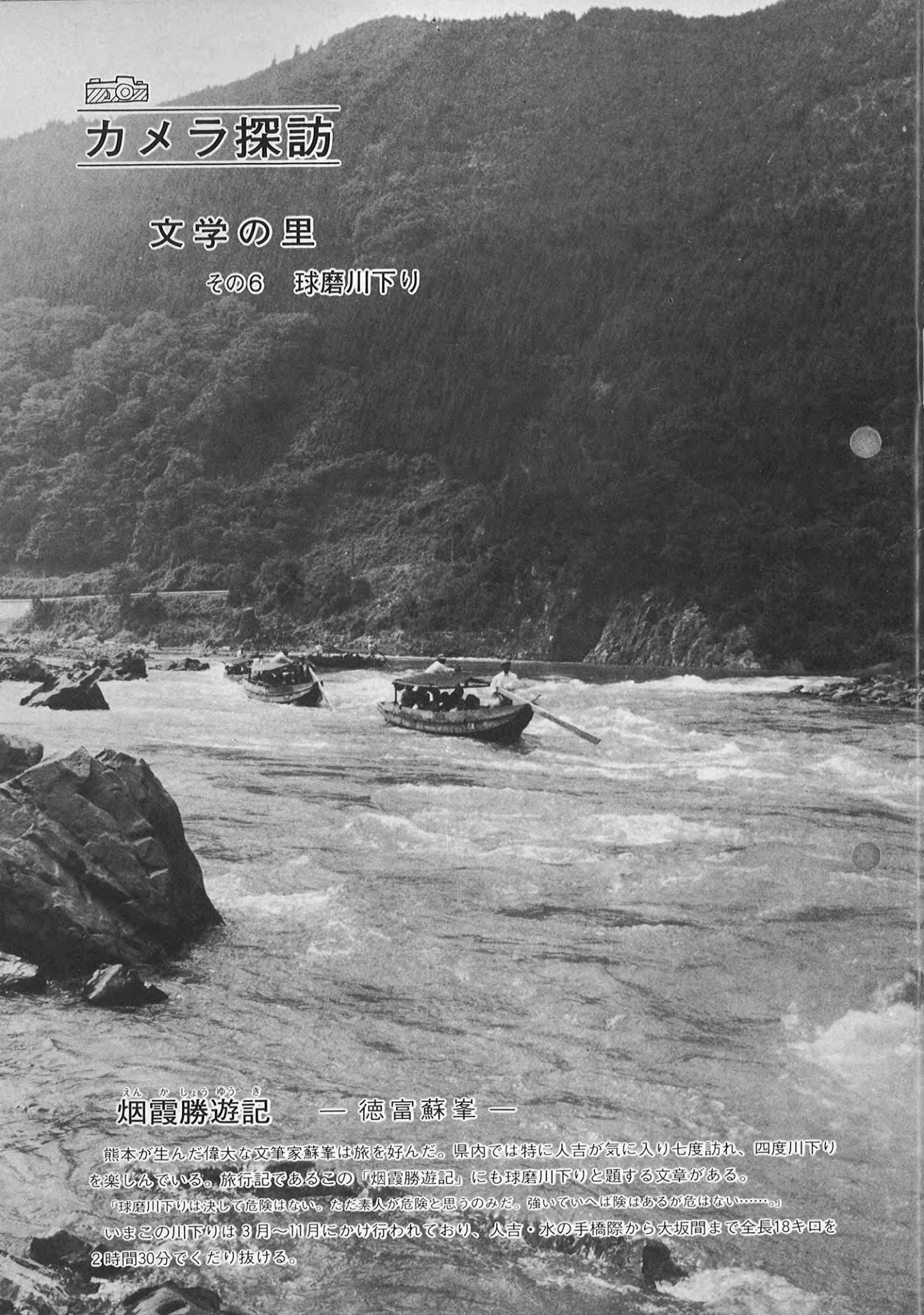




カメラ探訪

文学の里

その6 球磨川下り



えん かしょうゆうき
煙霞勝遊記

— 徳富蘇峯 —

熊本が生んだ偉大な文筆家蘇峯は旅を好んだ。県内では特に人吉が気に入り七度訪れ、四度川下りを楽しんでいる。旅行記であるこの「煙霞勝遊記」にも球磨川下りと題する文章がある。

「球磨川下りは決して危険はない。ただ素人が危険と思うのみだ。強いていへば険はあるが危はない……。」

いまこの川下りは3月～11月にかけて行われており、人吉・水の手橋際から大坂間まで全長18キロを2時間30分でくだり抜ける。

わたしの郷土

大津町立大津東小学校 六年 大田黒 栄二

ぼくの住んでいる所は大津町の東方にあり、南には山がそびえ、その下を白川が流れています。昔は、その白川の水を飲料水としても使ったそうです。東には阿蘇の山々が、すぐ近くに見えます。

北には、国道五七号線が走りその手前を国鉄が通っています。バスも通っていますが、一日に四往復しかありません。現在は自家用車が、ほとんどの家庭にあるので交通の不便はなくなりました。

ぼくたちの学校は、七年前に瀬田小学校と錦野小学校が合併してできた、新しい学校です。その前は、白川をはさんで、南に錦野小、北に瀬田小がありました。白川にかかる代官橋もまん中から作りが違っています。別々に作ったのだそうです。合併した当時は、代官橋の上でよくけんかをしたそうです。今は、みんななかよくしています。

昭和二十八年六月の大水害で 田んぼは、めちゃめちゃにされ橋も流されたそうです。

この地方は春になると独特なまつぼり風が吹き農家の人達やぼく達を困らせます。ひどいときは、田や畑のさく物に被害を与えます。学校への登校下校も困難になり車で送りむかえをしてもらうこともあります。

また春と夏には、上井手川、下井手川の二つの川の水がとまります。その時は川へはいり魚やひげがにとりまです。ひげがにとるときは土をほったり、石をひっくりかえしたりします。ときには、はさみにはさまれることもあります。

おとなも、魚つりに行ったり、うなぎかごやかにかをとるかごをつけに行くこともあります。

山にはクワガタ虫やカブト虫もいます。

こうしてぼくの住んでいる町について見まわしてみると、山があり川があり緑があっってほんとうにいい所だなあと思います。